

和歌山市立東中学校

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

実施日：平成30年4月17日(火) 実施対象：3年生 6学級 192名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・数学の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されます。**国語A・数学A**では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて**国語B・数学B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。**理科**では知識と活用を一体的に出題されます。

教科調査の結果分析より

※全国平均と比較し、本校の傾向を示しています。

<国語科の調査結果に見える本校の傾向>

正答率は和歌山市の平均と同じだが、全領域において全国平均を下回っている。記述問題は指示に従ってよく書こうとしている。

※全国に比べ、正答率が特に低かった事項

<課題1>

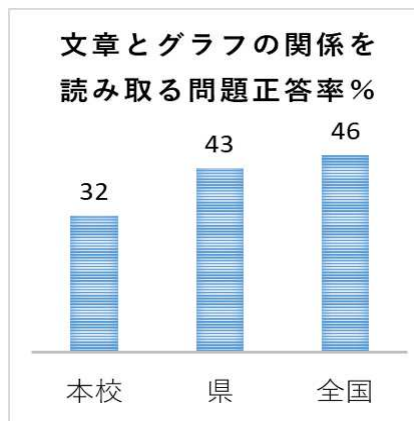
漢字を正しく書く力が定着していない。特に慣用句からの出題になると、意味と漢字が結び付きづらく、無回答者も多い。

<課題2>

文章と図表などとの関係を考えながら内容を捉える力が不足している。

<課題3>

文章の構成や展開の理解が不十分で、自分の考えを持つことが苦手である。



<数学科の調査結果に見える本校の傾向>

和歌山市の平均正答率を若干上回ったが、全国と比較すると全領域において正答率が低い。数と式の領域については全国平均に近い。

※全国に比べ、特に正答率が低かった事項

<課題 1 >

方程式の性質の理解が不十分である。

<課題 2 >

確率の意味の理解が不十分である。

<課題 3 >

一次関数のグラフの読み取りやグラフの交点の意味の理解が不十分である。

正答率%



■ 一次関数のグラフから読み取り問題正答率%



<理科の調査結果に見える本校の傾向>

和歌山市の平均正答率は若干上回ったが、全国と比較して、全領域において正答率が低くなっている。

※全国に比べ、正答率が特に低かった事項

<課題 1 >

エネルギー領域の光の進み方と、視覚について理解が不十分である。

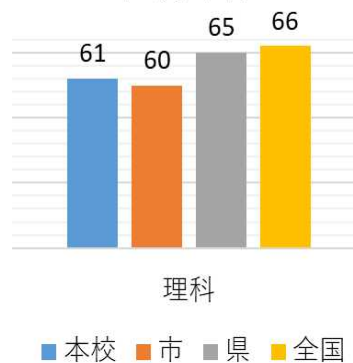
<課題 2 >

地球の領域の台風の進路と風のふき方の知識の活用が不十分である。

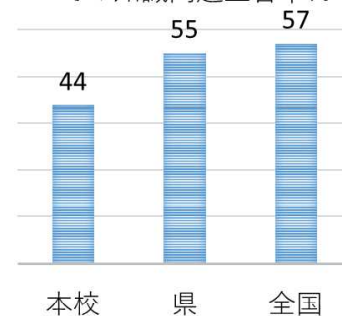
<課題 3 >

生命の領域の生命活動の働きについての知識・理解が不十分である。

正答率%



■ 生命活動の働きについての知識問題正答率%



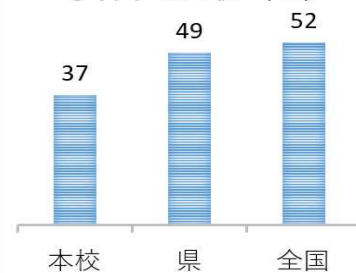
質問紙調査の結果分析より

※全国の平均と比較し、本校の課題となる傾向

- 数学、理科などへの関心等が低く、家庭において予習や復習など計画的に学習する生徒の割合が低い。学習習慣の定着に課題がある。
- 読書への関心が低いため、普段、読書を全くしない生徒の割合が高い。
- 成就感や自己効力感を味わう経験が少なく、自尊感情が低い。

※ 家読の時間を作りましょう。

家で、計画的に
学習する生徒 (%)



読書を全くしない
生徒 (%)



調査結果を受けて、本校が取り組んでいくこと

<学習習慣の定着させる>

- 授業改善に努め、教科への興味関心を高め、家庭での学習につながるようにする。
- 家庭と連携しながら、携帯やゲームの時間を自己管理する等、家庭での時間の過ごし方を指導する。
- CULTEKを活用し、家庭での学習習慣の定着を図っていく。

<読書への関心を高める>

- 図書委員会を中心に、図書館活動を充実させていく。昨年度開設した第2図書室の運営にもしっかりと取り組んでいく。
- 授業において、言語活動の充実に取り組み、文章を読むことへの抵抗なくし、読書に慣れ親しむようにする。

<自尊感情を高める>

- 日頃より、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを設定し、取り組み課程での生徒の良さや成果を積極的に評価し、成就感や自己効力感を味わえるようにする。